ホーム名：グループホーム柏原					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・堅苦しくなく心ある丁寧な言葉 使い。・他人に優しく、自分に厳しい。(すべての利用者様・ご家族様・近隣の皆様・役所方々・お世話になっている出入りの方々・共に歩む同僚)を理念に取り組んでいる。	職員による毎日の理念の唱和は、事業所の入居者に接する基本姿勢の確認でもあり、実践へ向けての職員の強い意志表示であると受け取れた。	理念の掲示板は各ユニット毎の廊下に掲示されている。訪問者や家族にも分かるように玄関に入った所にも掲示されるように望みたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通し、様々な意見を頂いている。また、石川町区長様との連携を図り、地域の行事に参加している。	事業所と地元との関わり合いは極めて活発である。ボランティアのギターやハーモニカの演奏、ドッグセラピーの愛犬との触れ合い、秋祭りの山車の内覧、中学生の職業体験など多彩な交流が行なわれている。	事業所がこの石川町に移転してまだ間もない。地元へ行く為には自治会への加入が不可欠である。これからの地元との繋がりと協力を得る為には、早急な加入が必要かと思われる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩等外出時には、ホームスタッフからの挨拶を心掛けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、運営推進会議を開催し、そこで得た意見を再検討し、サービスの質の向上に活かしている。	運営推進会議ではヒヤリハット、事故報告、避難訓練、事業所内行事、外部研修などの報告がなされている。今後の事業所の取り組むサービスとしてどのようなものが必要かが話し合われている。	広い視野からの福祉サービス向上には、事業所以外から参加者の意見は参考になるものも多い。その面での積極的な働き掛けをされたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	研修などがあれば積極的に参加するようにしている。また、市の窓口担当者に定期的に出向き、意見交換等おこなっている。	管理者は市の主催する介護予防の勉強会に参加している。それらの知識は共用させている。また、事業所内で取り決めた方針などは市に報告しアドバイスを求めている。	新しく移転したこの地元との関係強化についての相談など、市との連携を深めていくにはどうすべきかを、より一層の研究課題として頂きたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	研修等に参加し学んでいる。施設内においては、管理者よりフロアリーダーによる徹底を指示している。また、定期的にフロアでも検討している。	事業所が入居者に対して、身体拘束をしない支援をしていくという方針は、職員の研修や指導に於いても徹底したものがある。各ユニット毎の施錠は外部からの不審者の侵入を防止し入居者の安全を保護する為であるという。	入居者一人ひとりの生活態度を注意深く見守る事で、身体拘束を無くしていく支援に繋がると思われる。そういった方針の検討もされたい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加し学んでいる。施設内においては、管理者よりフロアリーダーによる徹底を指示している。また、定期的にフロアでも検討している。		

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し学んでいる。権利擁護・成年後見制度について学んでいる。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をとり実施している。		
10	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とコミュニケーションを図り、問題があれば適宜カンファレンスをおこない、問題解決に取り組んでいる。	職員は家族の訪問時に積極的に話し掛けていく。家族の要望だけではなく、意見があればそれを取り上げ、管理者や職員とで運営に反映されていく為の話し合いがなされる。	愛友館全体としての共有意見箱は設置されている。グループホーム柏原としての専用の意見箱も設置されるように望みたい。投書による意見も大いに参考になるものと考えられる。
11	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	定期ミーティング時、各個人の意見や提案を発言する機会を設けている。	各ユニット毎に毎月一回のミーティングが行なわれている。日頃、職員の体験した出来事から「こんな事をしてみたらどうか」を提案し試行してみる。その結果を見て次回のミーティングには改正案が出され運営の向上に繋げている。	各ユニット毎のミーティングで提案された意見は、職員全体の提案として調整をされ運営に生かされて頂きたい。
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績が認められた場合は、給与及び評価として賞与に反映される。		
13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回常勤者会議を開催し、スキルアップに努めている。また、毎月フロア会議を行い業務の見直し、技術・知識の向上に努めている。また、月1回の職員研修においてもスキルアップに努めている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	大きな研修、訓練（消防訓練）等に、お互いどのようにしているか等話合う場を作り、月1回同業者との交流をもち、また、勉強会等おこない、サービスの質の向上に取り組んでいる		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接に積極的に出向き、できるだけ会う機会を多くもつように心がけている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接に積極的に出向き、できるだけ会う機会を多くもつように心がけている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況を十分に検討し、入居以外の方法も助言している。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自身で出来る事はして頂き、出来ないことについても声掛けをおこない、ゆっくりと本人主導の介護をおこなっている。		
19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には面会に積極的に来て頂くように声を掛けている。また、行事が開催される際は、本人様と過ごして頂けるよう取り組んでいる。		
20	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	オープンなホームを目指し、今までの交流が途切れないようにバックアップしている。	馴染みの人の訪問は常に受け入れられている。入居者の自発的な希望があれば、可能な限り実現への努力がなされている。家族の協力も得る場合もあり、墓参りには家族の送り迎えを受けている人もいる。	寡黙な入居者には積極的に話かけなどををして、薄れていく記憶の中での本人の思い出話なども話題にしてあげ、心温まる支援もお願いしたい。
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	朝の体操や個々にあったレクレーションを考え、利用者様同士の交流が出来るように常に考えている。		
22	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族様に年賀状送付したり、電話での近況を確認し、関係を断ち切らないように努めている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の想いを大切に、可能な限り希望に添える生活が送れるように努めている。	職員の入居者に接する態度には優しさが見うけられた。昼食時での食事の支援や入居者に話し掛けなど、リビングで寛いでいる入居者には満足な表情が窺えた。	入居者との日常会話と観察からどのような事を思い、どのような事をして欲しいかという問題意識を常に持ち続けられサービス向上に努めていただきたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	ひもときシートをもとに利用者様や家族様の方に話を聞き取りながら（利用者様が発した言葉等も）全職員でこれまで生活歴等を共有し、本人らしい生活が送れるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひもときシートをもとに、定期的にカンファレンスをおこない、個人ケア記録をもとに個々の1日の過ごし方、心身状況等を職員間で把握できるように努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	「どのような生活を送りたいのか?」「どのようにすれば本人らしい生活が送れるのか?」を職員各々が日々考え、利用者様・家族様の意向に沿った介護計画を作成している。	各ユニットリーダーが中心になり職員の日頃のきめの細かい観察と体験した事を踏まえ、家族の意向も取り入れた介護計画の作成がなされている。長期計画は1年、短期計画は3カ月であるが、常に新しい事態に対応できるように3カ月毎の見直しが行なわれている。	基本的な福祉支援である介護計画には、事業所をはじめ入居者側や介護関係者からの意見も踏まえ、より総合的な計画作りになっていく事を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケア記録・フロアノート・ひもときシートの中に気づき等記入し、カンファレンス時に計画の見直しをおこなうように活用している。また、ひもときシートをもとに介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じ車を出し、利用者様や家族様の負担を軽減できるような取組をおこなっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年1回消防署より防火訓練の講習に来て頂けるように努め、利用者様が安心して暮らして頂ける環境作りに努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様・家族様の同意のもと、24時間体制で診てもらっている。	事業所の協力医療機関はあるものの、入居者本人や家族の要望は大切にされ、かかりつけ医の受診はなされている。現在5人の入居者が家族の同行でかかりつけ医の診察を受けに行っている。	高齢な入居者の体調急変時にも、かかりつけ医の迅速な対応が求められる場合もある。日頃からの緊密な連携が必要であり協力関係の強化に努めて頂きたい。

31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	週1回、看護師が来所し利用者様の状況を報告し相談・助言を頂いている。また、異変がみられた際、すぐに連絡し指示を仰いでいる。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ほぼ毎日面会に行き状態の把握に努め、退院時の迎え入れの準備を行っている。また、担当看護師に状態など情報交換をおこなっている。		
33	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医を中心に、訪問看護師、ホームスタッフ、家族様と連携をとり、利用者様にあった方針を考え支援している。	入居の時点で重度化や終末期への対応について説明がなされている。入居者の多くは事業所での看取りを希望している。職員は家族の要望を聞いた上で、主治医の指示に従って尊厳ある支援に徹している。	終末期を迎えた入居者については、家族や関係者で十分に話し合われた上、他の入居者に影響を及ぼさないような配慮ある支援を、これからもお願いしたい。
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを掲示し、周知徹底している。また、消防署職員の方に来て頂き、救急救命講習を受講している。		
35	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施。また、運営推進会議の際、地域の方の協力を得られるように働きをおこなっている。	年2回の避難訓練には毎回消防職員の立ち会いがある。10月25日の訓練には入居者18人全員が建物の外へ避難した。周辺には広いスペースがあり問題はない。安全面においても消火器、スプリンクラーが完備されている。水害についてはこの鉄筋建築の3階への避難が考えられている。	災害時には近所からの協力も得られたい。速やかな近所への連絡と応援に来てもらうような体制作りをされて欲しい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助中は、第三者から見られない聞こえないように、本人の自尊心を大切にケアをおこなっている。	入居者の人格やプライバシーを損ねないようにする職員の認識は深い。入居者には「～さん」付けをしている。特に介助中は入居者の気持ちになって考え、より注意深い気配りがなされている。	人生の先輩者に対する職員の敬虔な態度は高く評価したい。これからも、人格、プライバシーを尊重した支援であっていただきやすい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との信頼関係の構築に努め、利用者様の意向に沿う生活が送れるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や起床時間、入浴、散歩は一人一人の時間や体調、気分に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、整容に努める。気候にあった衣類を着て頂けるよう支援している。また、理容・美容は2ヶ月に1回業者が訪問し、本人の希望を聞きその都度対応している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ある程度利用者様の希望も聞きながら個々でのメニューの変更もおこなっている。能力にもよるが準備、片づけ等出来ることは一緒におこなっている。	食材は完全栄養管理された専門業者のあじみ屋が配達してくる。調理は一階の各ユニット毎で行われ配膳されていく。事業所の特別行事である誕生日会ではホームで料理されたものが出され入居者から喜ばれている。10時15時にはお茶やコーヒーなどの嗜好飲料もだされる。	入居者のもう一つの楽しみに、建物の外で食事をする、といった青空ランチがある。こういった楽しいサービスも是非、続けて頂きたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	個々の摂取量に応じた盛り付けをおこない提供している。また、利用者様に食事形態にあった支援をおこなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施している。ご自分で出来る方は声掛け・見守りおこなう。出来ないかたはスタッフにて口腔ケアおこなう。また、週1回訪問歯科の指導を頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々のパターンを把握し排泄の失敗の軽減に努める。また、定期的な排泄誘導の声掛けもおこなっている。	職員は一人ひとりの排泄時の状況を把握し、その人に合った見守りをしている。一人でトイレまで行ける入居者には出来る限りの見守りをして自立排泄出来るような支援作りをめざしている。	どの辺りまでが見守りの限界かは職員間でよく話し合わせ、その人に合った支援をされたい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘の原因や影響について定期的におこなう勉強会で学び、水分補給や適度な運動、腹部マッサージ等おこない、便秘には注意する。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様の希望にそい入浴できるように支援する。楽しんで頂けるよう入浴剤を使用し心の安定を図れるような支援をしている。	週に2回は入浴し洗髪もそのつど行い、湯も毎回入れ替えられている。2室あるバスルームの内1室はリフトを使わない最新式であり、浴槽の側面が昇降して身体が横から出入り出来るようになっている。同棲介助は本人の希望に添われている。入浴剤も使われる時もあり、入居者に楽しんでもらってる。	入居者は職員の楽しい声かけを受けながら入浴を楽しんでいるという。これからも入浴が楽しいものであるという雰囲気作りをして頂きたい。

46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活スタイルを大切に、昼寝をされたり、自由にご自分のペースで過ごして頂いている。		
47	○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について疑問があれば、医師や看護師、薬剤師に相談し変化があればすぐに報告をおこない、支援をおこなっている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に応じ外出行事をおこない季節感を感じて頂き、充実したホームでの生活が送れるように努めている。また、随時散歩や買い物に行ける環境を整えている。		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩に出掛けたり、本人様が希望される時は買い物等の外出支援をおこなっている。	建物の周辺はかなり広く外気浴には最適である。入居者の中には少し先にある地蔵まで行く人もあり、散歩の楽しさを味わっている。春の桜見には車を利用して、近くの石川河川敷公園までお弁当を持って出かけたりする。	あまり外出を好まない入居者にも、毎日少しずつ外出を誘ってあげるようにして、外気浴の楽しさや、健康の良さについて教えてあげて欲しい。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の能力に応じた対応で支援している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	年賀状の返信など、本人様に書いて頂けるよう支援している。		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中はフロアが明るくなり過ぎないように自然光を取り入れ、落ち着いた雰囲気になるように努める。また、季節感のある花や掲示物などを飾りにしている。	新築による快適で清潔なバリアフリーの共用空間には申し分のない居心地のよさを感じられた。明るさもほど良く、壁に飾られた写真や入居者と一緒に作られた作品には一層の親しみを感じられた。入居者は起きている時間のほとんどを、皆と一緒に共用空間で生活され職員と楽しく話し合っている。	ゆったりとした共用空間に入居者は寛ぎを感じられている。更に適温調整も含め、より快適な共用空間作りをお願いしたい。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状態に応じて席替えを行い、利用者様同士が交流をもてるように努めている。テレビを観たり、くつろぎの場として、活用できるようになっている。		
54	20 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時より本人様の使い慣れた家具・寝具を持参して頂き、自宅に近い雰囲気作りに努めている。	自分だけの居室には各人の好みの家具や衣類が持ち込まれ、落ち着いた雰囲気がある。部屋の掃除は職員が行いシーツ交換も週2回行なわれている。居室は広く清潔な状態が保たれている。	その人らしさの生活を営んで貰う為に、今、もう少し各人の好みの物を増やされてより生活感のある居室作りに向けての支援を期待したい。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室やトイレにはわかりやすいよう表札を掲示している。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない